

2015 SUPER GT
LMcorsa・Race Report
第4戦 富士スピードウェイ

◆ 8月8日(土) < 予選 > 天候:曇り | コース状況:ドライ

#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 / 飯田章・吉本大樹 28位 / 1分40秒954



年に一度の海外遠征を終え、AUTOBACS SUPER GT シリーズは再び、国内の転戦が始まった。第4戦の舞台は第2戦と同じ富士スピードウェイ。ただしゴールデンウィークから8月へと気候が変わり、またレース距離も第2戦の500kmからは4割も短い300kmレースとなっているため、一層タフなレースとなることが予想されていた。

昨年に引き続き、飯田章 / 吉本大樹のドライバーコンビで参戦するLMcorsaチームだが、マシンを同じFIA-GT3カテゴリーながらBMWから国産のLEXUS RC F GT3にコンバート。大いなる注目と期待を集めてのシーズンインとなった。ただし新

たに開発されたマシンは、まさに『生みの苦しみ』。マシンを製作する側も、それを使って戦う側も、総てが初体験の連続。特に走行時間が制限されているSUPER GTシリーズでは、こうしたニューマシンの開発は至難の業となっていて、開幕戦こそ10位入賞を果たしたものの、そこから全開のタイラウンドまでトラブル続きで完走すら果たせていなかったほどだった。

それでもレースの度に、そしてトラブルが出る度に、チームは対処療法を繰り返すと同時に、トラブルの原因を究明し対策を重ねてきた。その甲斐もあって今回は、幾つかのマイナートラブルは出たものの、致命的なトラブルからは解放されることになった。さらに幾つかのマイナートラブルに関しても、分析を進め、対処を終えることになった。これも着実な進歩だろう。

ただし、速さで後れをとることにに対して、その対処は簡単にはいきそうもないが、これはもう一步一步、着実に進めていくしかない。幸いチームオーナーからスタッフの一人一人、そしてもちろんドライバーも、チームが一丸となり、同じベクトルで進んでいるから、これからも着実に進化して行くことが期待されている。

レースウィーク初日となった土曜日は、午前中に公式練習、午後には公式予選が行われる、というもので、ノックアウト方式で行われる予選のスタイルも含めて、いつも通りのスケジュールとなっている。公式練習では飯田が11周、吉本が15周を走っていて大きなトラブルからは解放されていた。ただしタイム的にはまだ厳しく、1分40秒台でクラストップからは2秒差をつけられてしまった。それでも公式予選ではQ1に出走した飯田が、1分40秒261まで詰めて見せたが、このラップは攻めすぎた結果からかコーナーでオーバーランしてしまっておりタイム抹消、セカンドベストの1分40秒954でクラス28番手となってしまった。

明日の決勝は午後3時スタート。後尾のグリッドから着実な走りでもどこまで挽回できるのか？2人の走りと、それをサポートするチームの頑張りに期待したいところだ。



ドライバー／飯田 章 Q1:1分40秒954/28位

「まだまだ厳しいですが、それでも着実に改善されています。これからもチーム一丸となってクルマを開発／熟成して行くしかないですね。そのためにも、明日のレースでは何としても完走したいですね。そうしてデータを蓄積して行くことがクルマを速くする着実な一歩となりますからね」

ドライバー／吉本大樹 Q2: 未出走

「朝走った状態で、まだまだグリップが不足していますがバランスは悪くなかったですね。ただストレートスピードに差があって、それでタイムが伸びない。それでも大きなトラブルが出てないので、今回は何としても完走したいですね。クルマが重い割にタイヤには優しいみたいでタイムの落ちも大きくないから、決勝のペースは悪くないと思います」



監督／小林敬一

「タイム的にはともかく、今回は大きなトラブルなくレースウィークの初日を終わることができました。これも進化だと思っています。明日のレースでもトラブルを出さないように気をつけて、まずは完走。これが作戦ですね」